

サイエンスアゴラ2011参加企画(Mb-02)

シンポジウム 東日本大震災後の海洋汚染の 広がりとその影響

日時: 2011年11月19日(土)15時30分-17時
場所: 日本科学未来館 7階 みらいCANホール
主催: 日本海洋学会震災対応ワーキング・グループ
<http://www.kaiyo-gakkai.jp/sinsai/>

Twitter hash-tag: #SA11Mb02

趣 旨

東日本大震災にともなう大津波と福島原発事故によって大量の有害化学物質と放射性物質が海へ流出しました。また、福島原発から大気に漏出した放射性物質は風に運ばれた後、広い海域の海面に沈着しました。

これらの有害化学物質と放射性物質の広がり方と海洋生態への影響について、何が分かっている、何が分かっていないのか、を海洋学会会員が解説します。

パネルディスカッションでは、海洋学会会員と非専門家で構成されるパネリストが、フロアーの一般参加者を交えて、海洋汚染対策と海洋環境の保全・防災にかかわる海洋の監視・調査・研究の今後の進め方について意見を交換します。

15:35～15:50 講演 植松光夫

「海洋放射能汚染の

広がりを測る：わかること・わからないこと」

15:50～16:05 講演 升本順夫

「海洋放射能汚染の

広がりを再現する：わかること・わからないこと」

16:05～16:57 パネルディスカッション

「海洋の環境保全・防災にかかわる

監視・調査・研究の今後」

パネリスト：

日下部正志、鈴木昌弘、難波美帆、尾林彩乃、
植松光夫、升本順夫

コーディネーター：

市川洋

16:57～17:00 閉会挨拶 花輪公雄

日本海洋学会震災対応ワーキング・グループの活動(専門家としての活動)

参照: 日本海洋学会 東日本大震災関連特設サイト

- 2011年4月14日 有志により、「震災にともなう海洋汚染に関する相談会」を開催
(後援: 日本海洋学会、日本学術会議)。100名以上が参加者。
- 2011年4月15日 震災対応ワーキング・グループ発足(現在: 28名)

世界の海はつながっている。

⇒日本は**加害責任国**として、広域での放射線核種の分布を把握し、水産資源や生態系への影響を考慮する際の重要なデータを近隣諸国に対して提供する責務がある。

海は絶えず変動を繰り返している。

⇒現在進行中の海洋汚染状況を観測・記録することができるのは、**今**を生きる私たちだけである。私たちは、今後の詳細な解析のために、出来るだけ正確な観測資料を**未来**に残さなければならない。

これまでの活動: 各種の提言・提案、観測航海計画の情報公開、分析マニュアルの公開、一般公開シンポジウム開催、他

本シンポジウム ー専門家(海洋学の各分野)と非専門家・市民の対話ー

- 講演: **海については、分かっていることより、分かっていないことが沢山ある。**
- 意見交換: **海洋の監視・調査・研究の今後(何をどのように行なうか)**

海洋学(海洋科学)のキーワード:

総合科学(物・生・化・地)、複雑(多要素、相互作用)、地球規模、分散型巨大科学